

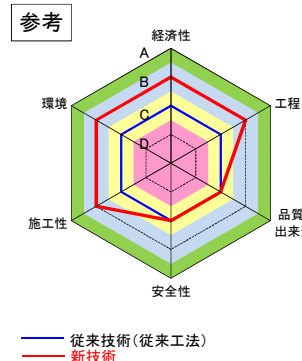
活用効果評価結果

公開版

平成28年度

中部地方整備局 / 新技術活用評価会議

N E T I S 情 報	開発目標		省力化、経済性の向上、省資源・省エネルギー																						
	新技術登録番号	KT-150006-A	区分	材料		有用な技術の位置づけ	活用促進技術																		
	分類	コンクリート工 - コンクリート工 - 鉄筋工 - 鉄筋工																							
	新技術名	脂肪族系鉄筋防錆剤「サビラズ」「ハイサビラズ」																							
	比較する従来技術(従来工法)	ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ																							
	新技術の概要及び特徴	本技術は、強靱かつ鉄筋の伸縮に追従する塗膜により、鉄筋に有効な防錆力を発揮させます。従来は、露出鉄筋にポリ塩化ビニル系チューブを被せ、工事再開時に剥がすことで対応していた。本技術の活用により、塗布作業だけの工程で防錆処理作業の短縮が図れる。																							
活用効果評価	所見	【優れていた所】 ・複雑な配筋や狭隙部も塗布または噴霧作業により防錆の効果が発揮でき、施工性の向上並びに工程の短縮が図られている。																							
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用調査及び活用効果評価を継続する技術としての選定要件にあてはまらないため継続調査は実施しない。 よって、情報種別記号「-VE」とする。																							
	留意事項	・危険物第4類第2石油類に分類されるため、換気及び火気の取り扱いには注意すること。																							
	活用効果調査表における改良点及び要望	・該当なし																							
活用効果調査結果	参考	対象工事	<ol style="list-style-type: none"> 高架橋中下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 築堤堤防保護工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 橋梁下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 橋梁下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 橋梁下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 道路改良工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) ランプ改良工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 橋梁橋台工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 樋門改良工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 幹線排水路工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 船揚場改良工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 人工地盤建設工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 防波堤上部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 防波護岸改良工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 防波堤工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 防波堤工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 橋梁下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 消波ブロック製作工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 消波ブロック製作・据付工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 橋梁下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 																						
		項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)	
		施工時評価	経済性	C	B	B	B	C	C	A	A	C	C	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B		C
			工程	C	C	B	B	B	C	A	A	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B		C
			品質・出来形	C	B	C	C	B	B	B	B	C	C	B	C	B	C	C	C	C	B	B	C		C
			安全性	C	C	C	C	B	C	C	D	C	C	C	C	C	C	C	D	D	C	C	C		C
			施工性	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		C
			環境	B	C	B	B	B	C	B	B	B	C	C	B	B	C	B	B	C	C	B	B		C
			その他																						
		総合評価点	C	B	B	B	B	C	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	C	C	C	B			
		今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も是非活用したい			活用を検討したい			場合によっては活用することもある			技術の改良を強く望む			各項目における判定										
		64%			22%			14%			0%			A		従来技術より極めて優れる									
														B		従来技術より優れる									
														C		従来技術と同等									
														D		従来技術より劣る									
		追跡調査の必要性	不要																						
		追跡調査	-																						



活用効果評価結果

公開版

平成28年度

中部地方整備局 / 新技術活用評価会議

N E T I S 情 報	開発目標		省力化、経済性の向上、省資源・省エネルギー																							
	新技術登録番号	KT-150006-A	区分	コンクリート工 - コンクリート工		材料	鉄筋工 - 鉄筋工 <th>有用な技術の位置づけ</th> <td colspan="2">活用促進技術</td>		有用な技術の位置づけ	活用促進技術																
	分類	コンクリート工 - コンクリート工 - 鉄筋工 - 鉄筋工																								
	新技術名	脂肪族系鉄筋防錆剤「サビラズ」「ハイサビラズ」																								
	比較する従来技術(従来工法)	ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ																								
	新技術の概要及び特徴	本技術は、強靱かつ鉄筋の伸縮に追従する塗膜により、鉄筋に有効な防錆力を発揮させます。従来は、露出鉄筋にポリ塩化ビニル系チューブを被せ、工事再開時に剥がすことに対応していた。本技術の活用により、塗布作業だけの工程で防錆処理作業の短縮が図れる。																								
活用効果評価	所見	【優れていた所】 ・複雑な配筋や狭隙部も塗布または噴霧作業により防錆の効果が発揮でき、施工性の向上並びに工程の短縮が図られている。																								
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用調査及び活用効果評価を継続する技術としての選定要件にあてはまらないため継続調査は実施しない。 よって、情報種別記号「-VE」とする。																								
	留意事項	・危険物第4類第2石油類に分類されるため、換気及び火気の取り扱いには注意すること。																								
	活用効果調査表における改良点及び要望	・該当なし																								
活用効果調査結果	参考	対象工事	21 橋梁下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 発注者指定型 22 高架橋上部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 23 河川護岸工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 24 道路整備工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 25 橋梁補強工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 26 災害復旧工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 27 高架橋下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 28 道路擁壁工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 29 堤防護岸災害復旧工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 30 橋梁架替改良工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 31 ランプ橋下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 32 高架橋上部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 33 構造物工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 34 橋梁下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 35 構造物修繕工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 36 橋梁床版工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 37 橋梁下部工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 38 ケーソン製作工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 39 防波護岸改良工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案) 40 橋梁補修工事 (従来技術 ポリ塩化ビニル系熱収縮チューブ) 施工者希望型(契約後提案)																							
		項目	ケース番号および年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)	
		施工時評価	経済性	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27		C
			工程	B	B	C	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	C	B	B	A		C
			品質・出来形	C	B	B	C	A	C	C	C	B	C	A	A	C	B	C	C	B	C	C	C	C		C
			安全性	C	D	D	D	C	C	C	C	D	D	A	C	B	D	C	B	C	C	D	D	D		C
			施工性	B	B	B	A	B	B	B	A	B	B	B	A	B	B	A	A	C	B	B	B	B		C
			環境	B	B	B	A	B	B	B	A	B	C	A	B	B	B	B	B	C	C	B	B	B		C
			その他																							
		総合評価点	B	B	C	B	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B			
		今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も是非活用したい		活用を検討したい			場合によっては活用することもある			技術の改良を強く望む			各項目における判定												
		64%		22%			14%			0%			A		従来技術より極めて優れる											
													B		従来技術より優れる											
													C		従来技術と同等											
													D		従来技術より劣る											
追跡調査の必要性	不要																									
追跡調査	-																									

